に戻り生徒、学校のために力を発揮できる、自分のエネルギーになると信じ、良い機会にしたいと思います。

この大会を成功させることは、選手はもちろん運営に携わる静岡県の高校生にとって地域や競技の素晴らしさを再確認する良い機会になると思います。各機関や地域、学校が力を結集して、大会を全力で支える体制を整えていきたいと思います。

準備に際し、多くの方々より、叱咤激励のお言葉を頂戴しています。その中には日体大卒の先輩や後輩もいます。日体大の絆の強さを感じ、嬉しく思います。皆様のお言葉を胸に大会を無事成功に終われるように頑張ります。

こんなところにも日体生

伊東市民病院
森田 浩史（平17卒）

僕が日体大に入学したのは、平成十三年です。当時を振り返ると特に「日体大に行って何かをやりたい」という強い気持ちを持っておらず、ただ少しだけ運動が出来て体を動かすのが好きだからということで受験した事を記憶しています。

在学時は、健康学科で社会福祉を専攻していました。福祉の勉強をしながら、ボランティア活動やサークル活動に明け暮れていました。ボランティアは神奈川県の西部地区を中心に活動しており、知的障碍者の野外活動のお手伝いなどをしていました。また在学時に出身である伊東に大型台風が直撃した時は、東京に住んでいましたが始発で地元に戻り、保育園の園庭に散ばった割れた窓ガラスの除去などを手伝った事を覚えています。サークルは複数の大学が集まって作られたダイビングサークルに所属して、多くの大学の仲間ができ、ダイビングやスノーボードなど季節ごとのスポーツを楽しみました。

大学卒業後は地元である伊東に戻り市民病院で事務職員として勤務しています。大学時代に健康である事のすばらしさや医療福祉連携の重要さを学んだ事きっかけに病院に就職を決めました。患者様の窓口対応から収益の積み上げ、クレーム対応など様々な業務をしています。最近では、職場体験に来た学生の指導や職員全体研修会の司会などをしています。今後は管理する立場になり、健全な病院運営を目指し、大学で培った行動力を発揮していこうと考えています。

スポーツ界や体育の現場だけではなく幅広いジャンルにおいて、日体大生がリーダーシップを発揮し活躍してもらえると卒業後の将来の選択の幅が広がる事に繋がります。それにより、私たちだけでなく今後入学、卒業する人も含め、母校への思いが強くなり日体大は、ますます価値を高め発展していくと思っています。

中学校教員となって

熱海市立熱海中学校
高橋 雄治（平21卒）

教員になりたいと感じたのは高校生の時でした。理由は「父がそうだから……」。今思えばたいした想いでもなく単純なものでした。

卒業後、講師として小学校や中学校、特別支援学校とさまざまな校種で勤務させていただき、本気で「なりたい」と感じるようになりました。各学校で児童や生徒と真剣に向き合う先生方、どんなことにも一生懸命取り組み成長していく子どもたち、学ぶことが多い子どもの言葉……さまざまな経験を通して、年々その気持ちが大きくなってきました。正直勉強は苦手であり、つまずくことが多く、その度、周りの先生方や生徒たちに励まされてきました。

九回目の採用試験でなんとか合格することができました。これも支えてくれた人たちのおかげです。

平成二十九年度から新規採用職員として熱海市立熱海中学校へ赴任してきました。初任者研修では、今まで学んだことのない内容が多く、幅広い知識を得ることができました。また、初任者同士でアドバイスや悩みを打ち明ける機会があったので、お互いに頑張ろうと感じることもできました。今では、大切な仲間です。